



AOSSA (アオッサ)に行くんやったらー 電車やバスが便利やざー !



AOSSA



県民活動センター



越前市場

AOSSAから望むJR福井駅・えち鉄福井駅

活動報告

- 4月21日 日本科学者会議北陸シホ[®] (金沢)
「公共交通の現状と将来像」
- 4月22日 RACDA 高岡 総会・記念講演会
- 4月27日 第5回自転車部会
- 5月4日 鉄道利用者会議総会・記念講演 (金沢)
「並行在来線と北陸地域の取り組み」
- 5月12日 第6回自転車部会
- 5月13日 勝山サイクルフェスタ
- 5月13日 ROBA 臨時理事会
- 5月14日 福井県健康バ[®]イ[®]ジ[®]-推進協議会 総会
- 5月18日 ROBA 例会・理事会

今後の予定

- 5月20日 (日) ROBA 総会・記念講演会
- 5月24日 (木) 都市交通計画全国会議出席 (札幌)
- 5月27日 (日) RACDA 総会 (岡山)
- 6月1日 (金) 第7回 自転車部会
- 6月3日 (日) 第1回自転車マップ作りワークショップ[®]
アオッサ 13:30~16:30
- 6月15日 (金) ROBA 例会・理事会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

「家族」と「幸福」の戦後史 三浦展

講談社現代新書 660円+税

ISBN4-06-149482-1 C0236

ファスト風土という造語を流行させた三浦展が、現在の郊外居住を求める人々の価値観がどのように形成されたかを、アメリカの万博にさかのぼって解説している。まちづくりを考える時に、一般庶民の深層心理を理解する上で皆さんが読むことを勧めたい本です。

RACDA 高岡の総会 & 記念講演会に参加しました。・・・4 月 22 日(日)

内田桂嗣

4 月 22 日(日)高岡の玄関口にあるウイング・ウイング高岡・6F で行われました RACDA 高岡の総会 & 記念講演会に参加してきました。

私自身、RACDA 高岡の総会の参加は初めてです。約 25 名ほどの出席で和気あいあいの雰囲気で行なわれました。事業内容は実に豊富。活気ある活動の一面を垣間見ました。また、若い人や女性の参加もあり、自発的、自主的な事業、広範な活動を展開している様子が見ええました。18 年度の会員は 57 名です。ROBA 会員とほぼ同数ですね。

つづいて記念講演会です。まず、京都大学教授 中川 大氏の「地域活性化と LRT」

- ・地域の活性化には「都心の活力と魅力を生み出すための都市政策」が必要。
- ・フランスのミュールーズでは都心に直結する利便性の高い公共交通を“先行的に整備”した。
- ・京都府の京丹後市では通常 400～500 円の路線バス料金を 200 円均一にしたところ運賃収入は 248 万円減収したものの、利用者が負担する個々人の運賃が減少したことによる便益が 1,600 万強あった。他の便益も考えると、運賃を下げることによる便益は大きいことが実証された。
- ・40 万都市を中心にデータを分析。まちなかで駐車場を作っても小売業の数と売上額は減少していることが分かった。
- ・来店を自動車だけに依存した場合、その地区の面積の 60%は駐車場にしなければならないことになる。店の連続性が絶たれ集積の魅力は低下する。郊外だから可能だ。
- ・駐車場自体悪くないが、自転車・徒歩・公共交通での来訪を考えなければならない。
- ・ダイヤはパルスタイルを採用するのが良い。 駅では鉄道は毎時 25 分着、乗継ぎバスは 30 分発というように分りやすくする必要がある。

次に、RACDA 会員小林一也氏の「飛越能交流プランと LRT」です。

北陸新幹線が開業することを前提に新高岡駅での結節方法や JR 在来線、氷見線、城端線、万葉線の 5 路線を有効に活用する LRT 構想を発表しました。在来線の高岡駅と分離した駅だけに公共交通の結節と速達性を保たないと難しい感があります。分離駅の長野県の小諸(しなの鉄道)・佐久平(北陸新幹線)の視察報告も併せてありました。

以上



中川教授の講演の様子



小林氏の講演の様子

全国鉄道利用者会議 2007年度総会 参加報告

講演会『並行在来線と北陸地方の取り組み』に参加して

内田桂嗣

平成 19 年 5 月 4 日 NPO 法人全国鉄道利用者会議が主催する総会記念講演会に参加しました。講師は垂細亜大学 講師 佐藤信之氏です。2014 年に迫った北陸新幹線金沢開業に伴う並行在来線問題を自治体での協議会の推移や青森県（青い森鉄道）、岩手県（IGR いわて銀河鉄道）、長野県（しなの鉄道）などの対応やそこでの問題点を示しながら進めました。

問題は、「いかにコストをかけないで効率的な運営を行なうか」ということですが、いづれにしても運賃アップは避けられないし、今後の少子化による定期需要の減少を考えると、経営効率もさることながら、国の財政的バックアップ無しでは運営は困難が予想される。

地域生活交通という観点で、この並行在来線問題を市民一人ひとりの問題として考えていかなければなりませんね。更に困ったことに、この問題は北陸 3 県連携無しでは解決できないということもあって、北陸の市民団体の連携が重要という認識も強く持ちました。



会場の様子



講演する佐藤氏

福井では、まだまだ並行在来線の問題は一般的には現実味を帯びた議論がなされてるとはいいいがたく、講演の中で指摘されていた国、県、市、市民団体の役割分担ということでは、各県ごとに運営モデルを検討せざるを得ない国や地方自治体に対して、これまでもたびたび話題に上がっているカールスルーエ型北陸 L R T 構想を、ぜひとも N P O の連携の中で詰めていって、利用者からみた並行在来線の使い勝手の良い活用計画案を提案していく必要性が高まってきたことを再認識しました。

林 博

本会からは 内田会長 林博理事 清水理事 松原さんと、私の五人が参加しました。全体では 参加者は 20 人くらいでした。講演会のテーマは新幹線開業後の並行在来線問題についてです。新幹線が福井までくるのはまだ先の話ですが金沢までの開業は 2014 年度末なので他の県ではもうすでに取り組んでいます。

話で印象に残ったことは新幹線が開業しても JR はおいしいところは切り離さずに経営を続け採算性が低いところだけ切り離す可能性がある？ そうなると経営がちくはぐになるので それをさせないように運動している。また 北陸線の支線についても並行在来線と同じように JR からの分離が望ましいと話しておられました。

玉井 秀和

RACDA高岡 軽快都市宣言 part より

去る5月3日に開催された、毎年恒例のRACDA高岡・軽快都市宣言に参加しましたので報告いたします。軽快都市宣言は今年で8回目。毎年、高岡駅前の末広町通りが獅子舞競演会で歩行者天国になるのにあわせて開催されているもので、毎年テーマを決めているいろいろな催しを行っています。

今年は全国の路面電車が走る町の名産品の物産市でした。もちろん、福井からは越前そばと「へしこ」。「へしこ」は一本まるごとと刺身の2種。この「へしこ」、全員辛党のRACDA高岡の面々が買っていきました。そのほかにも地元の人しか知らないような品物も含め、全国の味が集まっており、結構見ごたえがありました。

さらに、路上に停めた電車の中ではROBA作成のLRTパネルとRACDA高岡作成の高岡のLRT構想提案のパネルが展示されました。ROBAのパネルは実はRACDA高岡や金沢・LRTと暮らしを考える会のメンバーが撮影・提供した写真も使われていて、当初より貸し出しを前提に作成したもの。当日は高岡の市民がしっかり見ていきました。

それにしても、電車は子供たちに大人気。普段からもっと親が子供たちを電車に乗せるべきで、その仕掛けが欲しいところだなと思いました。福井にも大いに参考になることの多い催しでした。

清水 省吾

北陸共通の問題「並行在来線」 - 講演会から -

去る5月4日、特定非営利活動法人 全国鉄道利用者会議が主催する講演会が金沢で開催されました。演題の「並行在来線と北陸地方の取り組み」は実は北陸のニーズを取り上げたテーマ。富山や石川では北陸新幹線開業がそう遠くないこと、さらに、福井でも他人事と思っている間に他の県で最悪の枠組みが決まってしまうとも限らないこと等から考えて今が分岐点では、ということから決まったテーマでした。講師は亜細亜大学講師の佐藤信之先生。えちぜん鉄道や万葉線の取材・研究もされたそうで、北陸には親近感をお持ちとのことでした。

印象に残ったのは、質疑応答のなかで、「3県が別々に取り組むのは責任の所在と負担という意味において正しい。しかしそれは下の部分についてのことで、上の運行会社については一体でよい。これは民営でもよい。」というコメントでした。北陸は路面電車が全国で一番集積している地域。さらに、路面電車と並行在来線が同じ軌間。その気になればカールスルーエモデルが容易に構築できるところが他の並行在来線を抱える地域と違うところ。北陸のNPOがそれぞれ皆、推進したがっているテーマでもあります。

参加者は鉄道利用者会議のメンバーのほか、ROBA、RACDA高岡、富山県交通政策研究グループ、金沢・LRTと暮らしを考える会、公共交通とやま市民応援団の6団体にわたり、時間をかけて醸成されてきた北陸のNPOネットワークがテーマと時間を共有する場となりました。並行在来線は一県単位の話ではなく、3県のNPOの連携が不可欠なテーマ。今後の共同研究と何らかの提言につなげていきたいですね。

清水 省吾

5月24日 第36回都市交通計画全国会議(主催:国土交通省)～札幌～

「コンパクトなまちづくりと公共交通」パネリストで参加します

この度、5月24日札幌で開催される第36回都市交通計画全国会議(主催:国土交通省)のパネリストとしてROBAを代表して内田が出席することになりました。本件会議の存在を出席依頼があつて初めて知りましたが、NPOの代表がパネリストとして参加するというのも、時代といえることなんでしょうか。

ちなみに、パネルディスカッションのテーマは「コンパクトなまちづくりと公共交通」です。また、福井県都市計画課企画主査 松藤氏のPT調査の事例報告があります。以下そのスケジュールをご案内します。 記:内田

~~~~~

日時:5月24日(木) 第36回都市交通計画全国会議 次 第

~~~~~

9:00～9:30 <開会挨拶> 国土交通省北海道開発局長、北海道知事、札幌市長、他

9:40～10:40 <基調講演> 講演者:北海道大学 准教授 高野伸栄

10:40～12:10 <事例報告>

「魅力的で活力あるさっぽろの都心を目指して」

札幌市 都心まちづくり課長 八柳壽修

「福井市都市圏総合都市交通体系調査について第3回福井都市圏PT調査より」

福井県都市計画課 松藤隆純

「吉祥寺方式の取り組みについて」

武蔵野市吉祥寺まちづくり事務所長 郡 護

13:10～14:10 <基調講演> 講演者:東京工業大学 教授 中井検裕

14:10～15:40 <パネルディスカッション>

テーマ 『コンパクトなまちづくりと公共交通

～集約型都市構造への再編に向けた総合交通戦略の展開について～』

・コーディネーター 東京工業大学 中井教授

・パネリスト 盛岡市交通政策課長 鈴木幸雄

富山市都市整備部次長 粟島康夫

広島電鉄(株)常務取締役 中尾正俊

伊予鉄道自動車部部長 光長文生

NPO法人ROBA 会長 内田桂嗣

16:00～17:00 <特別講演>

演 題:「車両開発秘話 ～北を駆ける車両開発か～」

講演者:JR北海道 取締役副社長 柿沼博彦

RACDA高岡軽快都市宣言パート 行ってきました 070503

高岡駅前の末広町通りではクルマと電車を止めていわゆる歩行者天国にして、数箇所に設けた獅子舞のステージは、どこも中の様子がわからないぐらいたくさんの人ばかりでした。とくにメイン会場のウィング・ウィング高岡広場は2階、3階のデッキまで人、人、人でした。

末広町通りの西の端には猫電車を留めて、なかではRACDA高岡の飛越能LRT構想・公共交通活性化案のパンフ配布、LRTパネル展を行っていました(ROBAのパネルが大活躍)。外のテントでは『全国路面電車の走るまち名産品ストリート』を実施、松山の坊ちゃん電車と、万葉線の赤モモ(白えびせん入り)2個を購入。「赤モモはセット購入すれば連結が完成するよ」と、朝市で培った口車に乗せられて、買わされてしまいました。電車グッズは、ほかにも都電の最中などいろいろありました。

福井からはSさんの好みで「へしこ」が参加していましたが、(えち鉄?の)カニせん入り電車グッズもほしいね。もちろん、高岡おなじみのコロツケをほおぼりながら、コーヒーを飲んで、200円。うまい、安い。

はやしや



足湯(AOSSA) 無料です

作/漆崎 耕次

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「ハヤシジャーナル100号記念イベントを
6月10日(日)響のホール6Fで開催」

塚谷(副編集長)

「あおっさの越前市場スタンプ制覇したぞ！」

内田(発行責任者)

「LRTの話題、最近なくなりましたねえ」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>